

令和4年度家庭教育支援関係者研修会を開催しました

子育て家庭を包み込む地域づくりを目指して、教育と福祉が連携して開催する本研修会は、今年で6回目を迎え、今回は、家庭教育アドバイザー、まなび・生活アドバイザー、家庭相談員、主任児童委員、社会福祉士、保健師、行政職員等、様々な立場で保護者や子どもに関わる方々が参加されました。

【南部会場】

日時：令和4年10月31日（月）
午後1時～同4時30分
場所：京都府総合教育センター
大研修室

【北部会場】

日時：令和4年11月7日（月）
午後1時～同4時30分
場所：京都府総合教育センター北部研修所
大研修室

【講演・ワークショップ】

「こどもの育ちと学びをつなぐ～家庭教育・福祉行政との連携、学校間接続を通して～」
〈講師〉奈良学園大学 社会・国際連携センター長
人間教育学部 特任教授 善野 八千子 様

講演では、家庭教育・学校教育・福祉行政の協働に向けて“つなぐ”をキーワードに「保護者同士をつなぐひとづくり」「教職員・子どもをつなぐまちづくり」「教育課程をつなぐ保育・授業づくり」について、善野先生自身の御経験とエビデンス資料に基づいた説明とで、必要とされる家庭教育支援の在り方について分かりやすくお話いただきました。

ワークショップでは、『「訪問型家庭教育支援推進事業」切れ目のない支援のために』をテーマにグループワークを行いました。「ヒト」「モノ」「コト」「情報」について、参加者それぞれの立場から「成果」と「課題」を出し合い、交流しました。



【感想】

- 子ども達が置かれている現状と、講師の御経験談など具体的にお話いただきヒントを多くいただきました。
- 科学的な資料を使い、わかりやすく説明してもらえて、大変学びが多かったです。教育課程の一貫性の大切さもよく分かりました。
- 日頃は目の前のことで必死ですが、研修の中で一旦自分の役割や視点を振り返ることができました。
- 訪問型家庭教育では幼小接続期の働きかけについて自分は大きな役割をもっていることを改めて認識しました。
- 違う立場の人たちが集まることの大切さがわかりました。
- 「話を聞いてもらえてよかった」と保護者に思ってもらえることが家庭教育支援の第1歩ということを感じた。今後もその視点で業務にあたりたい。
- 「相談は待っていても始まらない」アクティブに動いていこうと思った。
- 今日はいろんな立場の方の意見が聞けたのが何よりも良かったです。このような機会が今後もあると良いなと思いました。